



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和4年6月7日
文責：校長 江上 知男

嘉島西っ子には「あいさつの力」があります！

大学まで運動部に在籍した私にとって、「あいさつができるかできないか」は、実は死活問題でした。もし、「先輩とすれ違ったことに気付かずあいさつしなかった」とか「あいさつはしたが相手に伝わらなかった」等となれば、ものすごく叱られました(とても文章にはできない目に遭いました…)。

方法はともかく結果的に「あいさつの力が身についた(擦り込まれた)」ことは、社会人になった私を随分助けてくれました。「第一印象は爽やかに感じる」「明るく快活に見える」「親しみやすい」などなど、難のある私の性格や容姿を十分に補ってくれたと思います。そして、「あいさつは世間を生き抜く『杖』になる」ことを実感させてくれました。ですから、「子どもたちの将来のためにあいさつの力を高めたい」と考えていますが…、さて、嘉島西っ子の「あいさつ」の実態やいかに…。

昨年度3学期末の【児童アンケート】では、「家や学校、地域で明るく元気な挨拶ができた」という問いの達成率は83.5%(20項目中13位)でした。また、同じく3学期末の【保護者アンケート】では、「子どもは、学校や地域であいさつができています」という問いの達成率は61.9%(20項目中20位)でした。アンケート結果からは、やや課題が見えるようです。

しかし…、毎朝校内・外で「びっくりするほど気持ちの良いあいさつをする子ども」と数多く出会います。いったい、その力をどこで身に付けたのでしょうか？。まずは、各家庭における「実践」が考えられます。きっと、親から先にあいさつをすることを心がけられたのでしょう。また、学校における「学習」が考えられます。あいさつの気持ちよさに気付いたのでしょう。…でも、私は「加えて」登下校を見守ってくださる地域の方々の影響もあると考えています。地域の方々は、子どもたちの名前を覚え、顔を見ながらあいさつをしてくださいます。本当に、ありがたいことです。

ちなみに私は、あいさつは次の「3つ」が大切だと考えています。

- ① 相手の目を見ること（「あなたへのあいさつ」という相手を大切にすることを届けたい！）
- ② 相手に伝わる大きさの声を出すこと（あいさつの相手を「明るく元気な気持ち」にしたい！）
- ③ 相手より先に、そして必ず返すこと（「やりとり」することで相手との関係をよくしたい！）

子どもたちの「相手を気持ちよくするあいさつの力」がさらに高まるよう、学校・家庭・地域が連携して取り組みたいものです。ぜひ、各ご家庭でも話題にさせていただければありがたいです。

1億円に大興奮！



6年生「租税教室」がありました！

6月2日(木)に、熊本法人会及び熊本東税務署から講師をお呼びし、6年生で租税教室を実施しました。租税教室とは、「次代を担う児童・生徒が税の意義や役割を正しく理解することで、税に対する理解を国民各層に広げること」を目的としています。子どもたちは「もし税金がなかったら」というテーマのDVDを視聴したあと、税金の説明を受けたり「1億円のサンプル」を見せてもらったりしたようで、「えっ、これも税金が使われてるの！」等々興味津々だったそうです。

先日、別の機会に税務署の人と話す機会があったのですが、「税制はしょっちゅう変わるので難しい。常に勉強です。」と言われていました。税金については、正直なところ私もよくわかりません。大人もしっかり勉強する必要がありそうです。

今週末(10日)は、「引き渡し訓練」が予定されております。近年、予測しにくい天候の急変で「子どもを下校させられない」ことが増加しています(昨年も「急な雷雨」による引き渡しがあったそうです)。子どもたちの「命を守る」観点から、どうかご理解とご協力をよろしくお願い致します。